

グループホーム うわばら

ホーム全体の理念「和我家」、さくらユニットの理念「しあわせづくり」、うめユニットの理念「十人十色」、それぞれの理念の実現を目指して、暖かみのある日々の生活を共に過ごして行きます。

1. サービスの質の向上

- (1) 個人の尊厳を守り、一人の「人」として関わり、「しあわせづくり」「十人十色」を常に念頭に置いて行動します。
- (2) 認知症ケアの専門職としての基本的なケアや知識を身につける為、各種研修に参加し、サービスの質の確保に努めます。
- (3) 毎月ユニット会を開催し、職員の介護技術や介護に対する心構えを学んでいきます。入居者一人ひとりの変化に気が付き、どう対応していくのかを職員で共有していきます。
- (4) 専門職として対人援助技術を身につけ、適切な態度・言葉使いに配慮します。
- (5) 入居者の趣味、特技を生かした余暇の充実を図り、生活に潤いを持っていただきます。
- (6) より客観的な視点で第三者評価機関（外部評価）によるサービスの質の評価を実施し、サービスの見直しや改善を随時行っていきます。
- (7) ゆとりあるケアの為に人材確保に努める。新人育成にも努め、全職員の意識改革に努力します。

2. 生活環境の整備と安全・安心の暮らし

- (1) 一人一人のこれまでの生活リズムにあった生活環境を整え、安心してその人らしい生活が送れるよう配慮し、ホーム全体の生活の流れを確立していきます。
- (2) 日頃より協力医療機関や協力施設との連携や情報交換を密に行い、緊急時などスムーズな連携が図れ、適切な介護・医療が受けられるよう体制を整備します。
- (3) 事故防止のため、ユニット会にて十分な検討や分析を行う。リスクマネジメント報告書の重要性を理解し、報告することの罪悪感を払拭して、リスク回避に積極的につなげていく。感染症に関しては日頃より清潔、不潔の分別を職員に徹底します。発症時には早期に関連施設、看護師に報告を入れ、対応の指示を受けます。
- (4) ホームでの看取り介護を希望された場合、本人の意志や家族の意向を尊重し、看取り介護の方針を十分に説明し、理解して頂けるよう努めます。人間らしい、暖かな最期の時を迎える事が出来るように、家族や職員が一丸となって支援します。
病院や自宅での最期を希望される方には、出来るだけの援助を行い、家族の支えとなれるよう努めます。

3. 家族及び地域住民との連携

- (1) 入居者がいつまでも家族との絆を保てるよう、面会や各種行事への参加、家族同士での外出を積極的に促していきます。
- (2) 入居者のホームでの生活状況を家族に面会時等で定期的に報告し、継続して情報を発信することで家族との信頼関係を築き、気軽に立ち寄れるアットホームな環境を作り努めます。
- (3) 入居者も地域住民の1人であることを認識して、地域住民として参加できる活動や行事への参加を促進していきます。